普及センターだより

くりはら

宮城県栗原農業改良普及センター

第138号

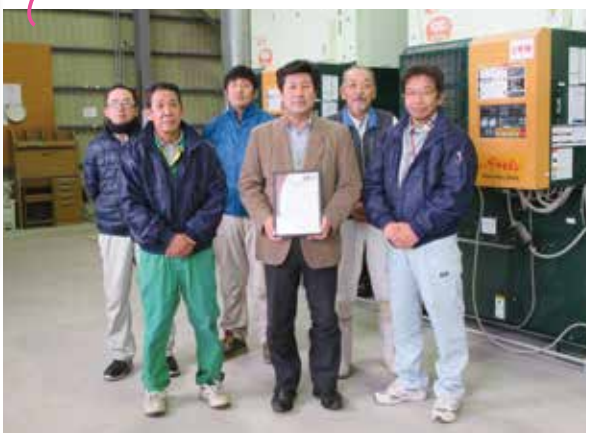
普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

〒987-2251 栗原市築館藤木５－１
ＴＥＬ　0228－22－9404（地域農業班）
　　0228－22－9437（先進技術班）
ＦＡＸ　0228－22－6144
E-mail　khnokai@pref.miyagi.lg.jp
URL:http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khsgsin-n/

栗原の地域農業を活性化するために「栗原地域集落営農ステップアップ研修会」を開催しました。

㈲川口グリーンセンターが栗原で初めて「JGAP認証（穀物）」を取得しました。



新しい時代への助走が始まります。

今上陛下の退位の日が平成３１年４月３０日に決まりました。このことにより元号も変わり，平成の時代が終わりを告げることになります。

１月から 12 月まで丸々「平成」というのは今年で最後になるわけです。これから新元号の決定やシステムの変更など様々な準備が始まります。新しい時代への「助走」が始まるのです。

農業においても，地域農業の持続的な発展に向けた取組が助走を始めています。その一つが，需要に応じた主食用米生産と飼料米などの多様な米の生産や大豆の生産拡大など，水田フル活用への取組みです。

米政策改革の一環として，国はこれまで行ってきた米の生産数量目標の配分をやめ，県の水田農業の推進方針に基づき「生産の目安」として地域や生産者に示すやり方に変わりました。少子高齢化や人口減少などにより米の需要が年々減少していく中で，農業者が再生産可能な米価水準を確保すべく，需要に応じた米生産を行うしくみへと変えていくものです。

もう一つは，平成３１年１月１日から新たに導入される「収入保険」制度です。これは，品目の枠にとらわれず，自然災害による収穫量の減少だけでなく，価格低下なども含めた「収入減少」を補てんするしくみです。平成３１年から加入する場合には，平成３０年秋に加入申請が必要となります (ただし，加入申請時点で１年以上の青色申告の実績が必要です)。なお，従来の農業共済制度等類似制度とは，どちらかを選択して加入することになります。

平成３０年は，このような施策や制度の改革・新設が助走を始めていることを意識していただきたいものです。今年は，これからの農業経営，地域農業を考え，自ら選択して進んでいく「新しい時代へ向けての助走」が始まっていることを胸に刻み，前に進む１年となると考えています。

農業改良普及センター所長
門　脇　正　好

農地中間管理事業を活用しましょう

プロジェクト課題紹介

No.1 「土地利用型大規模経営体の育成による地域農業の活性化」

本課題では，土地利用型大規模経営体の効率的な経営と地域農業の活性化を目指し，一迫地区の有限会社川口グリーンセンターをモデル経営体とした支援活動を行いました。

今年度は，① ICT・GAP を活用した作業・栽培管理改善に取り組み，農業生産管理システム「Akisai」に作業を記録して GAP の実践に活用しました。可変施肥の実証では，土壌肥沃度を測定しながら施肥量を調節する専用の田植機を用いることで，肥料の 10%が削減されました。②直播栽培の収量安定化を図るため，水稲乾田直播栽培の実証を行いました。ほ場の一部は倒伏しましたが，収量は 474kg/10a で，目標並を確保しました。③農地中間管理事業を活用した農地集約・規模拡大に向けた地域内の担い手連携の強化では，ほ場整備事業について情報を提供し，実施の可能性について検討しているところです。

管内の土地利用型大規模経営体が経営改善や規模拡大に取り組む上で，これらの活動を通じて得られた成果が，モデル事例として波及することが期待されます。

管内初！有限会社川口グリーンセンターが「JGAP 認証（穀物）」を取得！

有限会社川口グリーンセンターでは，販売先への信用力を向上させるため，平成 27 年度から GAP に取り組み始めました。

初年度は，県庁農業振興課の革新支援専門員による現地指導を通じて，GAP への理解を深めました。翌年度は，社員の JGAP 指導員等の資格取得，就業規則等の改正を行うとともに，作業場の整理整頓や各種記録の整備を進め，GAP の実践に努めました。今年度は，認証取得を目指し，補助事業を活用して，施設や資材管理の改善，専門家による現地指導を受けました。これらを経て，平成 29 年 9 月に審査を受け，同年 12 月に JGAP（穀物 2016）認証を取得しました。

同社では，GAP の実践と認証取得により，販売面での信用力向上，施設の環境整備や従業員の意識改善につながったと評価しており，今後も GAP の実践を継続し，さらに改善に努めたいとしています。

No.2 「新技術導入による大豆の収量・品質の高位安定化」

本課題では，大豆の収量・品質の向上と安定化を図るため，志波姫地区の農事組合法人ｉファーム及び個人１経営体を対象に，栽培技術の向上を支援しています。また，２つの対象を核としながら，現地検討会等を通じて他の大豆生産者にも積極的に情報発信を図り，栗原市全体の大豆収量・品質の向上を目指しています。

今年度は，基本的栽培技術の向上として，作業の適期実施や施肥設計の検討，雑草・病害虫等の対策について実施支援を行いました。また，新たな技術として「浅層暗渠の自己施工」や「狭畦播種」，「深層施肥播種」，「緑肥による連作障害の軽減」について実証ほを設けてその効果を検討しました。さらに，これらの実証ほ場において実演会や現地検討会を開催し，各種技術の紹介と普及拡大を図りました。

平成 29 年産では８月の日照が極端に少なく，大豆栽培にとって厳しい年となり，栗原市内でも全般に平年に比べて低収傾向となってしまいました。対象２経営体の作柄は現在とりまとめ中ですが，栽培技術の向上により，減収幅は抑制できたと見込んでいます。また，平成 29 年産では，特にミヤギシロメで蔓化・倒伏が多く見られ，減収の一因になりましたが，次年産では蔓化･倒伏の軽減技術として「摘芯」の実証を行い，その他の新技術と併せて増収効果を検討する予定です。

新技術実証ほを会場にＪＡ栗っこの現地検討会が開催されました

農業生産工程管理（GAP）に取り組みましょう

No.3 「ズッキーニの安定生産と産地の育成」

本課題では栗っこ農業協同組合，栗原市，県が一体となって目指しているズッキーニ産地育成に向けて，栽培技術の向上や産地 PR 活動を支援しました。栽培技術向上支援では，栽培講習会や現地検討会での技術指導，視察研修などを行いました。また，展示ほを設けて栗原地域に適したズッキーニ品種（ブラック・ボー，グリーンボート２号等）の比較選定を行いました。

産地ＰＲ活動では，ズッキーニ料理のレシピを作成し量販店へ配布しました。また，栗原市内の飲食店においてズッキーニ料理フェアを実施したり，栗原市内外でズッキーニ展示即売を行うことにより，県内や地元での認知度向上を図りました。

平成２９年の栗原産ズッキーニの販売額は前年から微増の約３千万円となりましたが，出荷物の規格選別徹底により市場の評価も高まっています。

平成３０年度は本課題の活動３年目（最終年度）となりますが，栽培技術の向上，産地 PR の推進，部会活動の強化に向け，引き続き支援していきます。

視察研修の様子

No.4 「地域農業の核となる農産物直売所の魅力アップ」

本課題では，岩手・宮城内陸地震や東日本大震災の影響により来客数や販売額が減少した栗原市金成地区の「あぐりっこ金成」を対象に，震災以前を上回る販売額を目指し，魅力ある店舗づくり，餅菓子加工品の商品開発，農産物の品揃えの改善に向けた取組を支援しました。

今年度は，接客対応や食品表示，新商品開発についての研修会を開催し，レジ担当者や加工品を出荷する組合員への意識向上に向けた取組を支援しました。さらに，直売所の売上データに基づき，農産物や加工品の年間の販売傾向の把握を行いました。この結果，店舗での POP による情報発信を通じた接客対応や品揃えの強化，直売所餅菓子部における夏季の新商品「水まんじゅう」の販売開始や春に向けた新商品開発への取組につながりました。

今後も直売所を核とした農産物の生産振興や地域活性化を目指し，魅力ある店舗運営を支援していきます。

新商品開発研修会の様子

No.5 「繁殖牛経営に取り組む新規就農者の経営管理能力の向上」

本課題では，黒毛和種繁殖牛経営での認定新規就農者２人を対象に，経営管理と飼養管理の基本技術習得について支援しました。

今年度は，飼養管理技術の向上に向けた支援や，「若手畜産経営者等（繁殖牛経営主体）経営管理技術向上研修会」の開催，農業簿記基礎講座への参加誘導を行いました。

対象の２人は既に基本的な飼養管理技術は習得していましたが，複式簿記にも取り組んでおり，資金繰り表や資産管理台帳等の関連帳簿の作成，整備等についても習得され，データに基づく客観的な経営管理と飼養管理を行っています。

また，昨年９月に開催された「第１１回全国和牛能力共進会宮城大会」において「種牛の部第３区」で優等賞を受賞するとともに和牛審査協議会では優秀賞を受賞するなど，関係機関や地域が一丸となって支援を行った成果が現れました。

近年，堅調な子牛市場相場の推移を受け肉用繁殖牛経営を目指す就農者が増えていますが，今後も就農者の各種台帳の整備やデータ管理手法の確立を図り，新規就農者の育成及び定着を支援していきます。

経営管理技術向上研修会の状況

農業用廃プラスチックは適正に処理しましょう

一般活動より次年度に向けた情報発信

栗原の野菜生産について

当地域の野菜生産は，農業法人の大規模養液栽培によるパプリカ，トマト，水耕野菜と指定産地のきゅうり，いちごの販売額が多くなっています。

近年販売額が伸びている品目としては，ズッキーニ，ねぎ，スナップエンドウがあげられます。ズッキーニは設備投資が少なく，小規模生産者でも導入できる品目として導入が進み，販売額は平成 25 年から３倍以上に増えています。最近の動きとして，ＪＡ栗っこでは平成 29 年度から耕英地区でだいこんの実証栽培を始めており，今後の生産拡大を計画しています。

新規就農者でも，野菜栽培を開始する生産者が多くなっており，施設でトマト，ミニトマト，ズッキーニ，スナップエンドウ，露地でだいこん，ズッキーニ，ほうれんそう，ねぎを栽培し，所得安定を図るため技術向上に取り組んでいます。

普及センターでは，収益性の高い農業経営の確立，労働力の有効活用に向けて，野菜生産への取り組みを支援していきます。

水田転換畑における飼料作物栽培の注意点

●排水と湿害対策を行いましょう

湿潤条件下で飼料作物を栽培する場合，肥料養分の溶脱や根の機能低下などによる生育不良及び減収が懸念されるため，排水条件の良好なほ場で栽培しましょう。排水条件が悪く，湿害のおそれがあるほ場では，排水対策をしっかり行いましょう。

・地表排水技術

心土が堅く，地表面の水がほとんど地下へ浸透せず滞水するほ場では，額縁明渠等による地表排水を行いましょう。

・地下排水技術

本暗渠があるほ場で滞水するほ場では，耕盤・心土破砕を行い土壌の浸水性を改善しましょう。また，弾丸暗渠や心土破砕等の補助暗渠は，本暗渠に交差するように２～３年毎に施工する事で，本暗渠の機能をより発揮させることができます。

●どうしても排水条件が改善しない時は

排水対策を行っても湿潤条件となるほ場で飼料作物を栽培する場合は，栽培ヒエや飼料イネ等の耐湿性の高い草種の栽培を検討しましょう。

●土壌診断を行いましょう

水田の畑利用によって，土壌は酸性化する可能性があります。また，土壌からの放射性セシウム移行抑制対策には，土壌中のカリウムを適正に保つことが重要となります。事前に土壌診断を行い，適切な施肥設計を行いましょう。

＊ただし，カリウムの過剰施肥はカルシウムとマグネシウムの吸収を抑制する可能性がありますので，注意しましょう。

栗原市生活研究グループ連絡協議会が設立５０周年！

栗原市生活研究グループ連絡協議会が，今年度で設立５０周年を迎えました。当グループは生活・農業生産にかかる知識・技術の習得を図り，農村生活の向上と地域社会への貢献を目的に活動しています。

昭和４７年に「栗原郡生活改善クラブ連絡協議会」として設立し，当時は台所改善など衣食住の近代化に努めました。その後は，地域の農産物を活用した加工品の開発や食育の推進，農村女性の社会参画に関する活動などを続けてきました。

現在は築館，高清水，一迫，鶯沢，志波姫，花山の６地区の生活研究グループ連絡協議会から構成されており，会員は約１５０人と，宮城県内の地区生活研究グループの中では最大の規模で活動しています。栗原市連としての主な活動には，農村女性の資質向上と会員同士の交流を目的とした「くりはら農村女性のつどい」，他地域の郷土料理や農産加工，農村女性の起業事例などについて学ぶ「リーダー研修会」，地域に伝わる農業・生活の技をベテランから教わる「ルーラルガイド講習会」などがあります。

生活研究グループの一員として活動したい方の入会を歓迎しますので，栗原農業改良普及センターにお問い合わせください。

農薬は登録内容をよく見て使いましょう

平成30年の稲作のポイント

平成 29 年の県の水稲生育調査ほの収量は，平年を下回ったほ場が多くなりましたが，東北農政局発表の平成 29 年産の水稲の作柄概況では，県北部は 100 の「並」で，10a 当たり収量（農家等が使用しているふるい目幅で選別）は 528kg で「平年並」でした。品質面では，県全体の 1 等米比率 (12 月末）は 83.9%で，昨年を下回りました。落等した主な要因は充実度，着色粒（カメムシ類），心白・腹白でした。このような収量や品質となった主な要因は，８月の低温と日照不足が考えられます。

平成 30 年の作付計画を立てる際には，下記に留意して，高品質･良食味米の安定生産を目指しましょう。

☆土づくり・施肥

平成 29 年の調査結果では，７月は高温多照に経過したため，減数分裂期に葉色が急に低下しました。出穂後は低温寡照で，日較差が小さく経過したため，登熟は極めて緩慢に進みました。また，８～９月の降雨や台風により，土壌水分が高く，倒伏したほ場が多く見られました。

土づくりとして，地力維持のために，堆肥やわら等の有機物を施用しましょう。また，耐倒伏性，登熟向上等に効果があるケイ酸質資材や低温時の活着，分げつ促進に効果のあるリン酸質資材などの土づくり資材を施用しましょう。

施肥管理においては，ほ場の地力を考慮した上で，必要以上に窒素を控えず，目標とする葉色値を維持し，葉色を極端に低下させないようにしましょう。

☆水管理

例年，中干しが遅すぎるほ場や出穂後の落水時期が早すぎるほ場があります。

中干しにより，水稲の根の活力を維持するとともに，無効分げつの発生を防ぐことができます。中干しは，その年の稲の生育に合わせて，必要茎数が確保されたら直ちに実施しましょう。幼穂形成期以降に土壌水分が不足すると，籾数の減少等により収量低下の要因になるので，幼穂形成期までに中干しを終えましょう。

出穂後の早期落水は，米粒の肥大を阻害し，未熟粒が増加する原因の一つになります。収量確保，品質低下防止のため，ほ場の条件に合わせて，適期落水を行いましょう。

☆雑　草

管内ではノビエ，オモダカ，イヌホタルイ，クログワイ等の残草が確認されました。

除草剤の効果を最大限に発揮させるために，畦塗りや畦畔補修，丁寧な代かきを行い，ほ場条件を整えましょう。雑草の残草状況に応じて除草剤を選択し，初期剤と中・後期剤の体系処理を実施すると，より効果的に防除することができます。

☆病害虫

県病害虫防除所の調査では，カメムシ類の発生は平年より多く，東北農政局の発表では，着色粒（カメムシ類）を原因とする落等率は高くなりました。要因として，水稲の出穂期間が低温寡照で長引いたため，カメムシ類の加害期間が長引いたこと，防除のタイミングや効果に影響があったことが推測されます。

斑点米カメムシ類の防除は，穂揃期とその７～10 日後の２回防除が基本です。水田内の雑草発生が多い場合は，１回目の薬剤散布時期を出穂始～穂揃期に早めましょう。

いもち病は，８月以降に発生が確認され，一部では発生程度の高いほ場がありました。いもち病の防除で箱施用剤を使用する場合，１箱当たりの施用量が規定量より少ないと十分な効果が得られません。箱当たりの施用量は登録内容を遵守しましょう。箱施用剤による予防防除を実施しない場合は，葉いもちの感染好適日の出現状況等の情報に留意して，水面施用剤等による本田防除を実施しましょう。

青色申告に向けて記帳を始めよう！

農業経営を維持，発展させるためには，日々の売上や経費を記録するとともに，資産や負債の残高がわかる諸帳簿を整備し，その内容を家族や共同経営者と共有するための努力が欠かせません。

こうして経営の記録を残すと，税務申告で所得を計算するときには青色申告を選択することができます。

青色申告には固定資産台帳や売掛帳，買掛帳等５冊の帳簿による簡易な方式と，複式簿記によって貸借対照表等を作成する正式な記帳方法がありますが，前者では１０万円の，後者では６５万円の青色申告特別控除が適用される等，数々の税制上の特典があります。

また，平成３１年から実施される収入保険制度では青色申告の実施が要件になります。同制度には一年分の青色申告実績があれば加入できますが，青色申告を５年間継続したときに，収入減少の補てん割合が最大（保険＋積立で９割）になります。

普及センターでは，経営規模の拡大を目指す方や，新規に農業経営を始められる方のために，複式簿記記帳について指導いたします。会計ソフトを使った方法についても対応しますので，御相談ください。

農作業事故をなくしましょう

宮城県農林産物品評会・花き品評会が県庁で行われました

平成２９年１０月１４日，１５日に県庁１階ロビーにおいて開催された平成２９年度宮城県農林産物品評会，宮城県花き品評会には，栗原管内からは農産物５５点，花き２４点が出品されました。審査の結果，野菜（果菜類）部門できゅうりを出品した栗駒の佐藤豊さんが，みごと知事賞１等（農林水産大臣賞）を受賞されたほか，下表の６人の方々が入賞されました。

県内から多くの農林産物や花きが出品された中で，栗原市産品の品質の高さを来場された方々にアピールすることができました。

受賞された皆様，おめでとうございました。

表彰式の様子（佐藤豊さん）

平成 29 年度　宮城県農林産物品評会及び花き品評会受賞者一覧

部門名		品　名	受賞者氏名	受　賞	地区
普通作物		水稲（うるち玄米）	有限会社　狩野農友	知事賞３等	栗　駒
普通作物		水稲（うるち玄米）	三浦　仁	知事賞３等	志波姫
野菜	果菜類	きゅうり	佐藤　豊	知事賞１等（農林水産大臣賞）	栗　駒
野菜	果菜類	パプリカ	リッチフィールド栗原株式会社	知事賞３等	高清水
野菜	茎葉菜類	ねぎ	片倉　栄治	知事賞３等	瀬　峰
花き		パンジー	岩渕　光男	金賞（全国農業協同組合連合会宮城県本部長賞）	若　柳
花き		ハボタン	千田　繁	銀賞	金　成

佐竹きみ子さんが農業・農村活性化女性グループ等表彰で受賞しました

平成２９年度農業・農村活性化女性グループ等表彰の地域社会参画部門において築館の佐竹きみ子さんが最優秀賞を受賞されました。この部門は，女性が核になって取り組むむらづくり活動や農村生活の良さを生かして取り組む都市・農村交流活動，地域で男女共同参画を実現するために取り組む活動に対して表彰されるものです。

佐竹さんは，これまで栗原市生活研究グループ連絡協議会や宮城県生活研究グループ連絡協議会，栗原市米粉研究会の代表を歴任し，地域の特産品作りや食育活動など精力的に取り組んできました。また，男女共同参画キャラバン隊を結成し，女性農業委員の必要性を働きかけ，佐竹さん自身が栗原市で初めての女性農業委員の一人に任命されました。現在では，地域に伝わる郷土料理を次世代に継承する活動も展開されています。これらの活動によって農村女性の社会参画を押し進めたことが評価されたものです。

平成３０年２月１日に開催された「２０１８農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会」で表彰式が行われました。受賞，誠におめでとうございます。

表彰式の様子

『４Hクラブ』で一緒に栗原農業を盛り上げよう！

栗原４Ｈクラブは現在 16 人の会員がおり，管内の新規就農者や県農業大学校生の激励会，他地区の４Ｈクラブ員との交流を通した仲間づくり，自らの資質向上，地域活性化への貢献につながる幅広い活動を行っています。

栗原４Ｈクラブでは今年度，管内でもその影響が大きくなっている「獣害対策」をプロジェクト活動に位置付け，わな猟免許の取得や獣害の実態把握に取り組むとともに，蔵王町において「有害鳥獣対策等現地研修会」を開催しました。研修会では，蔵王町鳥獣被害対策実施隊員等の皆様から (1) 蔵王町内での獣害発生状況やその推移，(2) 効果的なわな設置手法や「人」への加害防止対策，(3)「蔵王町有害鳥獣解体場」の設置目的や運営方法等について説明されました。

この活動を通じ，クラブ員は獣害対策の必要性や自身が地域内で担うべき役割を認識し，獣害の軽減に向けて積極的に取り組んでいます。

栗原４Ｈクラブでは，「何事も楽しんでやる！」をモットーに活動しています。若い農業者同士の情報交換や仲間づくりをしたい方など自己啓発に興味のある方は，普及センターまでご連絡ください。

来作に向けて土づくりを実施しましょう

この「普及センターだより　くりはら　第 138 号」は、1,170 部印刷し、1 部あたりの単価は 48 円です。